

展覧会の概要

展覧会名 | レオ・レオーニと仲間たち

会期 | 2026年4月24日(金) - 7月2日(木)
9:00~17:00 (入館は16:30まで)

会場 | 高知県立美術館 展示室 B、C

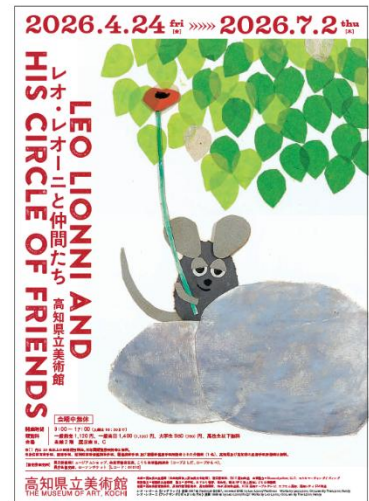
観覧料 | 一般前売 1,120 円、一般当日 1,400 (1,120) 円、大学生 950 (760) 円、高校生以下無料

※()内は 20 名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳 及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。【前売券販売所】県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店本店、こうち生活協同組合(コープよした、コープかもべ)、県庁生協売店、ローソンチケット [Lコード:61515]

小さなさかなのお話『スイミー』、青と黄の抽象的な形がストーリーを織りなす物語『あおくとときいろちゃん』。これらは、刊行から 60 年以上たつてなお愛され続けるレオ・レオーニ (Leo Lionni 1910-1999) の絵本です。レオーニは、20 世紀のイタリアやアメリカにおいて、絵画、デザイン、絵本など多彩な分野で活躍しました。本展は、レオーニの生涯にわたる制作活動と、影響関係にあったアーティストたちを併せて紹介するものです。

1910 年にオランダで生まれ、幼少期から豊かなヨーロッパ文化を享受して成長したレオーニは、青年期にはイタリアでブルーノ・ムナリ (Bruno Munari 1907-1998) をはじめとする多くのアーティストや文化人と交流し、影響を与え合いました。1939 年にアメリカへと渡り、アートディレクターとして活躍する一方、絵画の制作にも打ち込みます。後半生はイタリアとアメリカを往来しながら画家、彫刻家、そして絵本作家として多数の作品を生みだしました。

ヨーロッパとアメリカ、商業アートとファインアート、さまざまな世界を越境して制作を続けたレオーニの活動の全貌を、20 世紀の文化史の大きな流れの中から検証します。本展の最終章では絵本原画を多数展示し、30 年以上におよぶレオーニの絵本づくりの軌跡を振り返ります。



本展の みどころ

絵画、彫刻、デザイン、絵本原画等約 300 点。

多彩な活躍をしたレオ・レオーニの全貌をご紹介します！

① 絵本の巨匠レオ・レオーニ、四国初の展覧会！貴重な絵本原画の数々を展示

『あおくんときいろちゃん』『スイミー』『フレデリック』……。レオーニの絵本は教科書に掲載されるなど、日本でも親しまれています。絵本の制作でレオーニは水彩、油彩、クレヨン、色鉛筆、スタンプ、コラージュといったさまざまな画材・技法を用いました。レオーニの手仕事のわかる原画の数々をご覧ください。

② 初期のデザインの仕事をご紹介

絵本作家として知られるレオーニですが、絵本制作を始める前はデザイナーやアートディレクターとして活動し、企業や美術館の広告やパッケージ、雑誌の編集を手がけました。レオーニがデザインしたモダンなポスター、雑誌などを展示します。

③ 「黒いテーブル」シリーズなど、絵画・彫刻作品を展示

1960 年以降、アーティストとして生きていくことを決心したレオーニ。イタリアにアトリエを構え、油彩画や彫刻を制作しました。トスカーナの自然からうまれた「平行植物」シリーズや「黒いテーブル」をご紹介します。

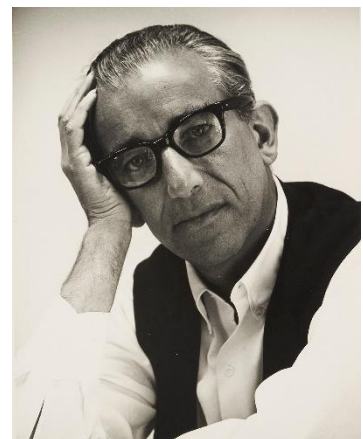
④ レオーニの交友関係を知る

オランダで生まれ、イタリアやアメリカで活動したレオーニはエリック・カール、ベン・シャーン、ブルーノ・ムナリ、アレクサンダー・カルダーなどさまざまなアーティストと交流しました。彼らの作品と手紙等の資料を展示します。

作家プロフィール

レオ・レオーニ [Leo Lionni 1910～1999 年]

アムステルダムで生まれ、幼い時からヨーロッパ各地とアメリカを転々としながら育つ。1930 年代半ばよりミラノでグラフィックデザインの仕事を始めるが、イタリアで差別的な人種法が制定されたことをきっかけに、1939 年に渡米。ニューヨークを中心に、オリヴェッティ社や MoMA の広告、ビジネス誌『フォーチュン』のアートディレクションなどを手掛けて成功した。1959 年に初の絵本『あおくんときいろちゃん』を出版してからは徐々に広告の仕事から退く。以後、年に 1 冊の絵本を出版しながら、油彩画、彫刻、版画などの制作に没頭する。イタリアのトスカーナにアトリエを持ち、ニューヨークとイタリアを行き来する生活を 30 年以上続けた。



本展の構成

第1章 アムステルダム シャガールのある家

レオーニは1910年にアムステルダム近郊で生まれ、芸術的にとても恵まれた環境で育ちました。レオーニの少年時代を、当時の思い出や写真とともに紹介します。

第2章 ジェノヴァとミラノの間で 未来派と広告メディアでの活動

レオーニは幼少期からオランダ、ベルギー、イタリアと移住を繰り返します。イタリアでは、ブルーノ・ムナリをはじめとする未来派のアーティストたちと一時活動をともにします。その後、広告・出版文化が華やぐミラノで、ソール・スタインバーグをはじめとするアーティストや文化人と関わりながら、イラストやデザインの分野で活動するようになりました。

ここでは、イタリアにおけるアーティストたちとの交流を、作品や同時代の印刷物などからひも解きます。

第3章 ニューヨーク アートディレクター時代

1939年に渡米したレオーニは、ビジネス雑誌『フォーチュン』やCBS放送、MoMA、オリヴェッティ社などの仕事を手がけ、アメリカ屈指のアートディレクターになっていきます。一方で絵画制作にも注力し、1947年には初の個展を開催しました。そして1959年、レオーニは初の絵本となる『あおちゃんときいろちゃん』を出版します。

本章では、アメリカでのアートディレクターとしての仕事をベン・シャーン、ムナリ、スタインバーグ、カルダーらとの交流の軌跡とともに紹介します。また、1940年代後半からの油彩画もあわせて展示します。

第4章 イタリアでの制作

アーティストとしての活動に集中しようと、1961年、イタリアにもどったレオーニは、アメリカ時代から続く「想像肖像」シリーズや「プロフィール」シリーズ、「平行植物」シリーズ、「黒いテーブル」シリーズなど、さまざまなテーマに意欲的に取り組みました。晩年はパーキンソン病のため制作にも困難が伴いましたが、作ることへの熱意が失せることはなく、病のため震えてしまう線をも効果的に用いた「鳥」シリーズが最後の作品となりました。

本章では、イタリアに移住してから制作された作品を紹介します。ブロンズ彫刻《プロジェクト：幻想の庭》や「鳥」シリーズなど、見ごたえのある作品が並びます。

第5章 レオの絵本

1959年に初めての絵本を出版してから、自分自身の物語を絵で表現できる絵本との出会いにより、レオーニは作り手として新たなスタートを切りました。ほぼ1年に1冊のペースで制作を続け、絵と文章をともに手掛けた物語絵本は27冊にのびります。本章では、30年以上におよぶレオーニの絵本づくりの軌跡を振り返ります。そこにはデザイナーやアーティストとしての活動の積み重ねも映し出されています。また、レオーニの多彩な技法や描き方が見られる、絵本原画の一部もご紹介します。

主催

主催 | 高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）、朝日新聞社、RKC 高知放送
 企画協力 | Blueandyellow, LLC、コスモマーチャンダイズィング
 特別協力 | 板橋区立美術館
 協力 | 好学社、あすなろ書房、至光社、認定 NPO 法人高知こどもの図書館
 後援 | 高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK 高知放送局、KCB
 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送

関連イベント

① 記念講演会「レオが絵本で語りたかったこと」 [無料・予約不要]

これまで3回のレオ・レオーニ展を手がけてきた松岡さんに、生前のレオの話や、今回の展覧会の見どころなどをうかがいます。

日時 | 5月10日（日）14:00-15:30

講師 | 松岡希代子（板橋区立美術館館長）

会場 | 1階 講義室

② 春の定期上映会「レオ・レオーニとカレル・ゼマン」

会場 | 美術館ホール

相互割引 | 本展のチケット又は半券提示で上映会を前売料金、上映会のチケットまたは半券提示で本展が前売料金でご覧いただけます。

※予約制無料託児サービスがあります。詳細は下記をご覧ください。

5月23日（土）

A プログラム 10:00~10:30 『レオ・レオーニ 5つの名作集』

B プログラム 11:10~12:23 『鳥の島の財宝』

A プログラム 13:00~13:30 『レオ・レオーニ 5つの名作集』

C プログラム 14:10~15:40 『クリスマスの夢』 / 『狂気のクロニクル』

D プログラム 16:10~17:33 『プルコウク氏 映画製作の巻』 / 『彗星に乗って』

5月24日（日）

A プログラム 10:00~10:30 『レオ・レオーニ 5つの名作集』

E プログラム 11:10~12:57 『水玉の幻想』 / 『シンドバットの冒険』

A プログラム 10:00~10:30 『レオ・レオーニ 5つの名作集』

F プログラム 15:10~16:47 『王様の耳はロバの耳』 / 『ホンジークとマジエンカ』

各上映作品の詳細は、上映会のチラシ、またはウェブサイトをご覧ください。

③ 担当学芸員によるギャラリートーク [要観覧券・予約不要]

日時 | 5月17日（日）、31日（日）、6月14日（日）10:00-

会場 | レオ・レオーニ展会場

④ ふらっとアート体験コーナー [要観覧券・予約不要]

展覧会期間中いつでもだれでも参加できるワークショップスペースを設置します。

会場 | 2階エレベーター前

⑤ レオーニ絵本の読み聞かせ [要観覧券・予約不要]

日時 | 5月12日(火)、22日(金)、6月9日(火)、23日(火) 11:00-

会場 | レオ・レオーニ展会場

協力 | 高知 蔦屋書店

※大人もご参加いただけます。

⑥ ティーチャーズ・ウィーク [無料・要予約]

会期中、高知県内の教職員の方(図工・美術以外も含む)は本展及びコレクション展を無料でご覧いただけます。希望者には学校での美術館利用についてのご相談も承ります。

期間 | 5月1日(金) - 7日(木)

お申込み方法 | お電話(088-866-8000)にて4月30日(木)までにお申し込みください。

⑦ ベビーフレンドリーアワー

主に0~2歳児と保護者が気兼ねなく、安心して鑑賞できるよう配慮した時間です。時間内いつでもお越しください。10:30と11:30より参加自由のミニギャラリートーク有り。

日時 | 6月9日(火)、10日(水) 各日 9:00-12:00

定員 | 各回5組(きょうだい児も参加可)

お申込み方法 | お電話か[申込フォーム](#)にて開催前日までにお申し込みください。

⑧ 予約制無料託児サービス

日時 | 5月23日(土)、24日(日) 各日 14:00-16:00

定員 | 各回6名程度

対象 | 本展、もしくは上映会を鑑賞される方のご家族で、生後6ヶ月から就学前のお子さま

お申込み方法 | お電話(088-866-8000)で仮予約の上、申込書を5月16日(土)までにお送りください。

■ 広報用画像

- ・ご希望の画像の番号（a～i）をお知らせください。作品のトリミングはご遠慮ください。このほか、展覧会のポスター画像のご提供も可能です。
- ・必ず下記のキャプション（太字下線は必須）もご掲載ください。
- ・掲載時には、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
- ・掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、若干部ご恵与ください。

【お問合せ先】

高知県立美術館（高知県高知市高須 353-2） tel 088-866-8000 / fax 088-866-8008




学芸課 展覧会担当

柳澤宏美 hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

長山美緒 mio_nagayama@kochi-bunkazaidan.or.jp

茂木恵美子 emiko_mogi@kochi-bunkazaidan.or.jp

	<p>【広報用画像 a】</p> <p><u>レオ・レオーニ《製菓会社モッタ新聞広告 ミラノからヴェネツィアへ直行》1935 年頃</u></p> <p><u>板橋区立美術館蔵（Gift of the Leo Lionni Family, 2021）</u></p>
	<p>【広報用画像 b】</p> <p><u>レオ・レオーニ《想像肖像シリーズ（金髪の婦人）》1963 年頃</u></p> <p><u>板橋区立美術館蔵（Gift of the Leo Lionni Family, 2021）</u></p>
	<p>【広報用画像 c】</p> <p><u>レオ・レオーニ《ユネスコ ポスター World on view（世界を見わたす）》1952 年</u></p> <p><u>板橋区立美術館蔵（Gift of the Leo Lionni Family, 2021）</u></p>
	<p>【広報用画像 d】</p> <p><u>レオ・レオーニ《ニューヨーク近代美術館 開館 25 周年記念ポスター》1954 年</u></p> <p><u>板橋区立美術館蔵（Gift of the Leo Lionni Family, 2021）</u></p>
	<p>【広報用画像 e】</p> <p><u>レオ・レオーニ《プロジェクト：幻想の庭》1978 年</u> <u>板橋区立美術館蔵（Gift of the Leo Lionni Family, 2021）</u></p>

	<p>【広報用画像 f】 <u>レオ・レオーニ『フレデリック』原画</u> <u>Frederick © 1967, renewed 1995 by Leo Lionni/Pantheon</u> <u>Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family</u></p>
	<p>【広報用画像 g】 <u>レオ・レオーニ『マシューのゆめ』原画</u> <u>Matthew's Dream © 1991 by Leo Lionni/Knopf</u> <u>Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family</u></p>
	<p>【広報用画像 h】 <u>レオ・レオーニ (ポートレート)</u></p>
	<p>【広報用画像 i】 <u>レオ・レオーニ《黒いテーブル 植物学》1991年</u> <u>Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family</u></p>